

安達太良山の火山活動解説資料（平成22年6月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成21年3月31日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図2、図6～8）

若宮（沼ノ平火口の西北西約8km）に設置してある遠望カメラでは、沼ノ平火口付近の噴気は観測されませんでした。

17～18日に沼ノ平火口を中心とした現地調査を実施した結果、沼ノ平火口の噴気活動、熱活動は低調な状態が続いていました。沼ノ平火口内南西(Y-3)付近では、高さ1m程度の弱い噴気が観測され、地熱域¹⁾が引き続き認められました。また、沼ノ平火口中央(Y-1)付近では、噴気は観測されず、地中温度²⁾も低い状態が続いていました。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) サーミスタ温度計による測定。サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

・地震や微動の発生状況（図3）

火山性地震は少ない状況が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4～5）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

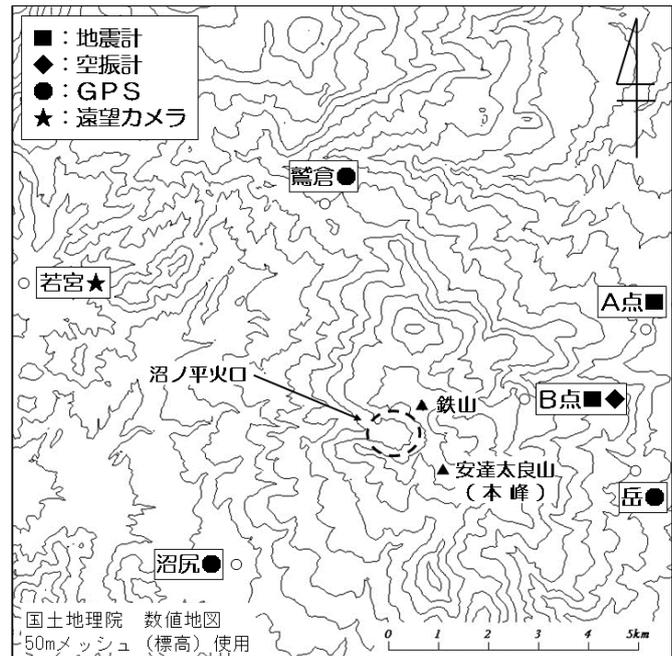


図1 安達太良山 観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成22年7月分）は平成22年8月5日に発表する予定です。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平20業複、第647号）。

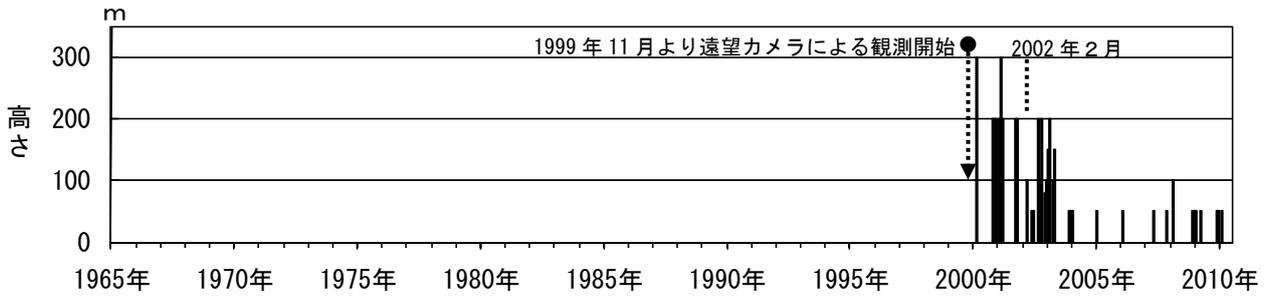


図2 安達太良山（沼ノ平）月別最大噴気高（1999年11月～2010年6月）

2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さです。

2002年2月以降は全ての時間で観測したデータによる高さです。

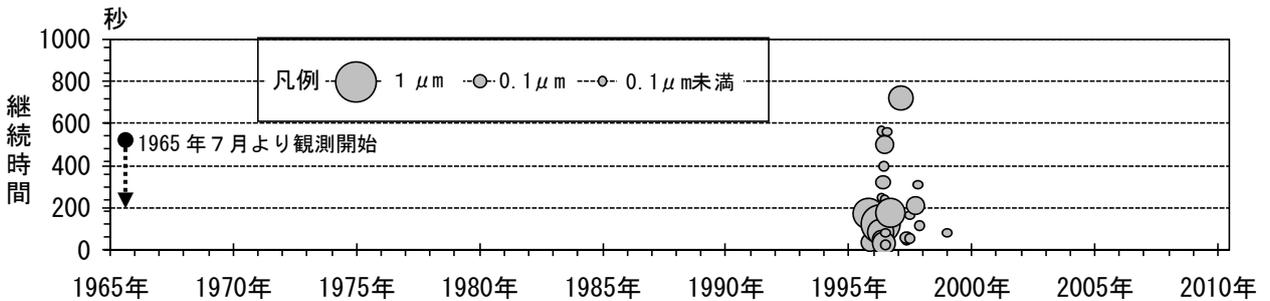
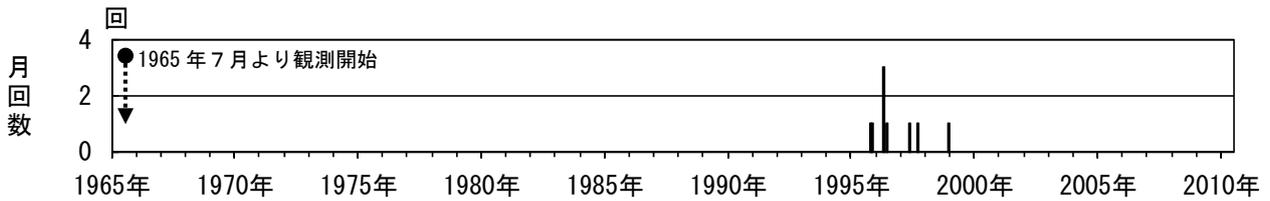
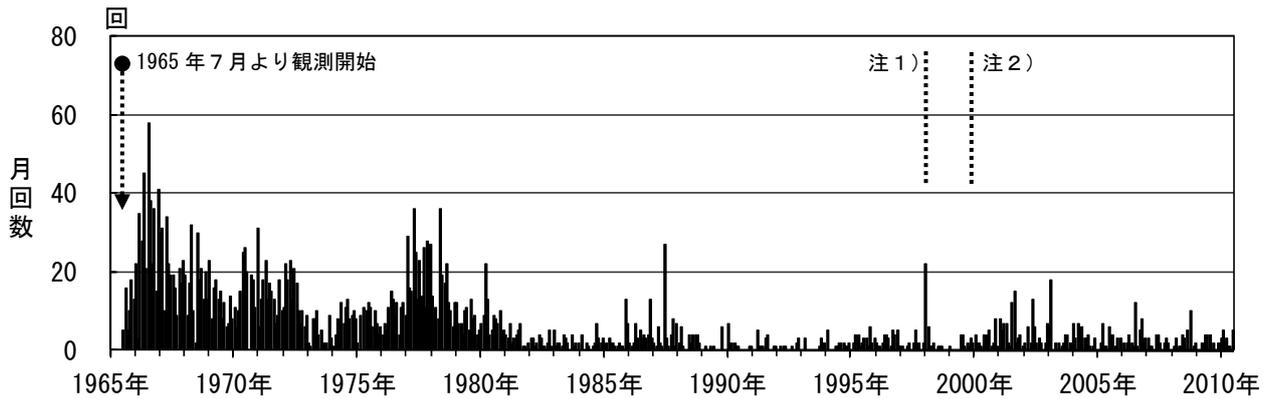


図3 安達太良山 上段：月別地震回数（1965年7月～2010年6月）

中段：月別微動回数（1965年7月～2010年6月）

下段：微動の継続時間と上下動最大振幅（1965年7月～2010年6月）^{注3)}

注1) 1998年より検測基準をS-P5秒以下からS-P2秒以下に変更しました。

注2) 1999年10月にB点を新設し、基準観測点をA点（沼ノ平から東北東約6km）からB点（沼ノ平から東北東約3km）に変更しました。

注3) A点による。

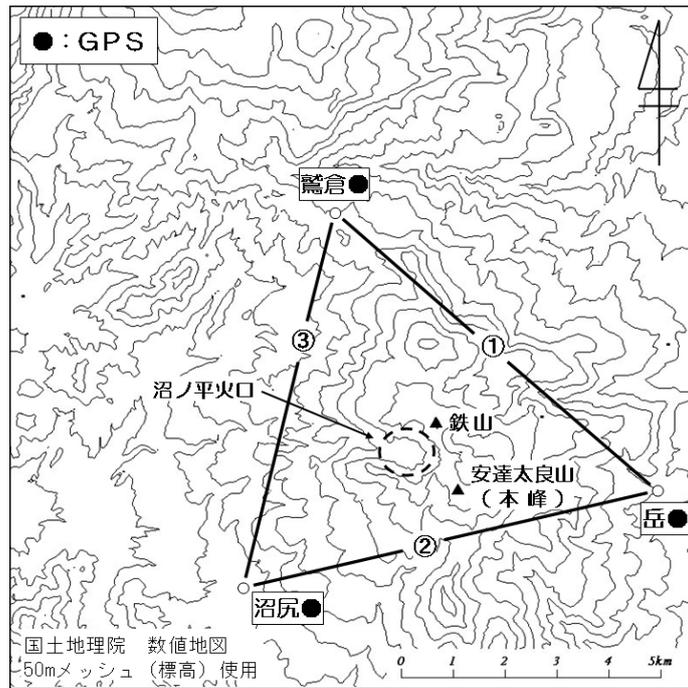


図 4 安達太良山 GPS 観測点配置図
GPS 基線①～③は図 5 の①～③に対応します。

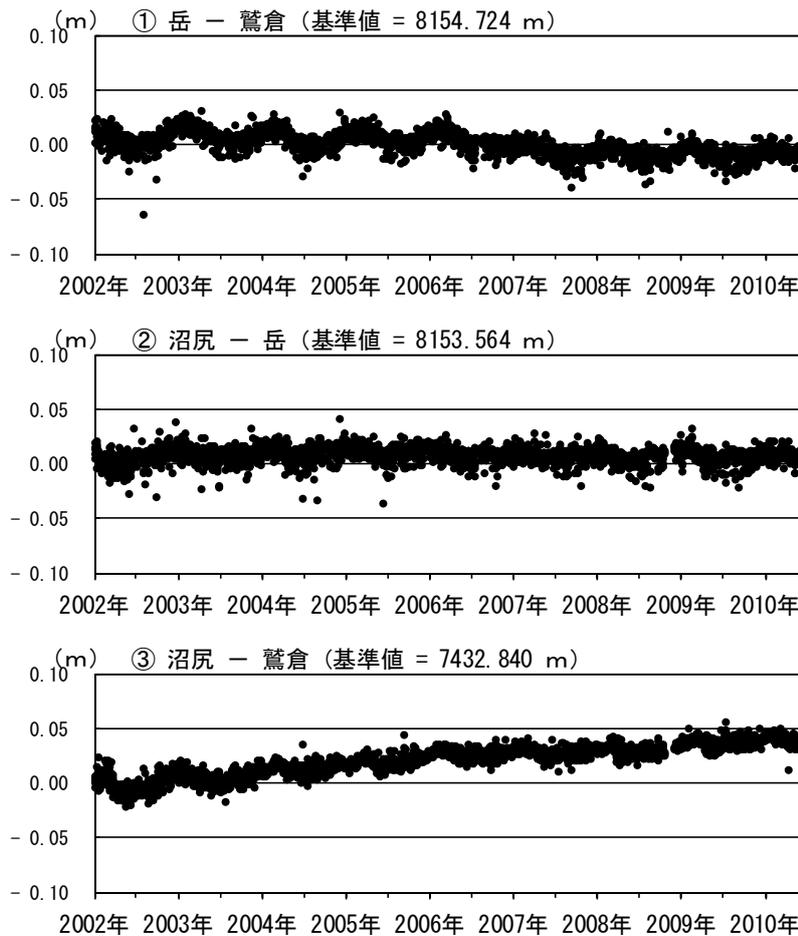


図 5 安達太良山 GPS 基線長変化図（2002 年 1 月～2010 年 6 月）
①～③は図 4 の GPS 基線①～③に対応しています。
グラフの空白部分は障害による欠測です。

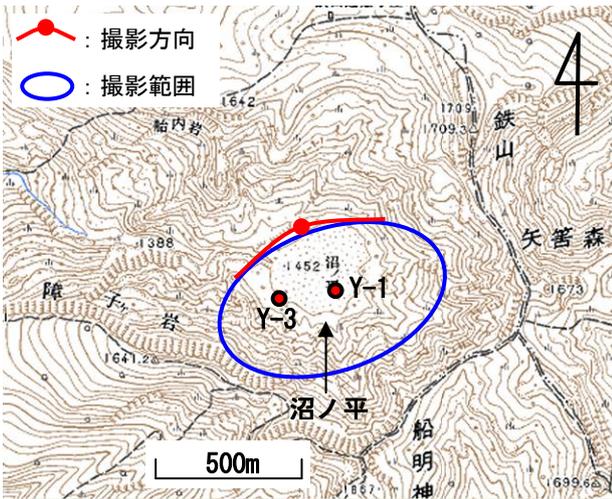


図 6 安達太良山 可視画像及び地表面温度分布¹⁾ 撮影位置 (図 8)

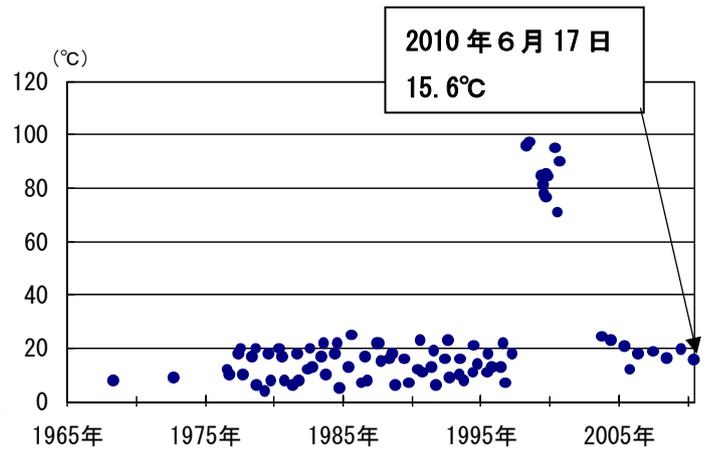


図 7 安達太良山 沼ノ平火口中央 (Y-1) の地中温度²⁾ の変化図 (1968 年 5 月～2010 年 6 月)

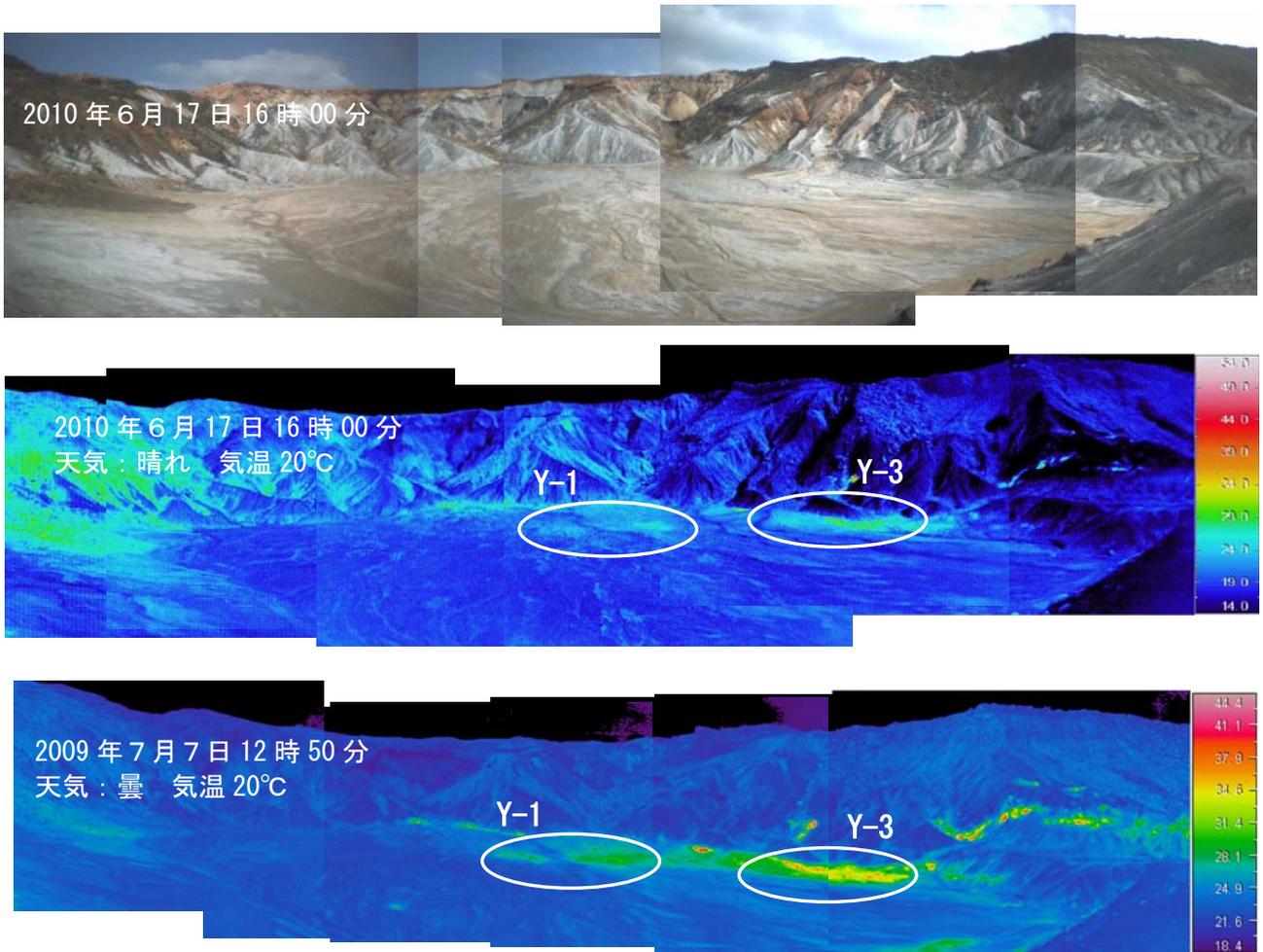


図 8 安達太良山 沼ノ平の可視画像 (上段) と地表面温度分布¹⁾ (中段、下段)
上段、中段：2010 年 6 月 17 日 下段：2009 年 7 月 7 日